



ろうさい連携だより

2021.9
第35号

病院の理念

満足と納得が得られる医療の実践

- 地域医療支援病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 災害拠点病院
- 臨床研修指定病院
- 日本医療機能評価機構認定病院

基本方針

- 1 患者さんの安全と安心を第一に考える医療を提供します
- 2 患者さんの権利を尊重し、思いやりのある医療を実践します
- 3 科学的根拠に基づく質の高い医療を提供します
- 4 地域の方々と勤労者の健康管理を支援します

副院長就任のご挨拶

2021年4月1日付で東北労災病院に副院長として赴任して参りました井樋栄二と申します。井樋というのは珍しい姓ですが、先祖は水戸の佐竹藩主の家臣であり、藩主から井樋姓を授かったと聞いております。医師としては東京で開業していた祖父から3代目になります。

私は1980年に東北大学医学部を卒業し、国立水戸病院で3年間の研修を終えたのちに、東北大学整形外科に入局しました。骨粗鬆症患者の姿勢の研究で学位取得後、磐城共立病院で田畑四郎先生から肩の臨床を学び、その後1990年～93年、97年～98年の2度にわたり米国メイヨー・クリニックに留学し、An教授の指導のもとに肩関節の基礎研究を、理学療法・リハビリテーション科のSinaki教授の指導のもとに骨粗鬆症患者の背筋運動の研究を行いました。帰国後、1994年に秋田大学に講師として赴任し、助教授、教授を経て、2006年6月に東北大学教授として母校に戻って参りました。その後15年間、東北大学整形外科の教室運営に携わり、学会長としてはアジア太平洋整形外科学会(那覇、2010年)、国際肩肘関節学会(名古屋、2013年)、日本肩関節学会(仙台、2015年)、日本骨粗鬆症学会(仙台、2016年)、日本整形外科学会(仙台、2017年)などを開催しました。研究面では、個人的には肩関節不安定症の研究に力を入れてきましたし、教室としては東北大学金属材料研究所との共同研究で低弾性チタン合金(通常のチタンよりも柔らかく骨の弾性に近いため金属と骨の間に歪みを生じにくい金属)を用いた人工股関節の開発、同学歯学部との共同研究でリン酸オクタカルシウム(骨の主要構成成分である水酸アパタイトの前駆物質)を用いた人工骨の開発を行ってきました。本年3月で大学を定年退職し、4月から東北労災病院に赴任することになりました。



副院長 井樋 栄二

担当いたします副院長業務は経営、連携、医学研究であります。日本は世界に先駆けて2007年に超高齢社会に突入しましたが、高齢者人口が増える一方で、平均寿命はほぼ頭打ちになっています。仮に三大死因(がん、心疾患、脳卒中)がすべて治療可能となり、それらで死ぬことがない夢のような社会が到来したとしても、寿命は男女ともあと7年くらいしか延びないことが分かっています。今後の医療が目指すべき方向は、寿命そのものを伸ばすことではなく、いかに質の高い生活を送るか、すなわち健康寿命をいかに長くし、要介護期間をいかに短くするかに尽きると思います。健康寿命を脅かす最大の要因は運動器疾患であり、次いで脳疾患(認知症)です。東北労災病院では東北大学大学院と連携して運動器疾患に関する連携講座「運動器医療開発医学講座」を開設する予定で準備を進めています。今後は診療面のみならず連携講座を通して研究面からも運動器疾患の克服を目指して健康寿命の延伸に取り組んでいきたいと考えております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

目次

- p1 地域医療連携センターから
- p2-14 診療科案内
- p15 東北労災病院外来診療担当表

地域医療連携センターから

入退院支援室開設のご案内

総合患者サポートセンター副センター長・看護副部長 佐々木 礼子

当院入退院支援センターでは、8月に入退院支援室を開設いたしました。場所は1階吹き抜けのロビーでございます。

現在は主に入院前支援としまして、入院の決まった患者さまに対し入院に関わる説明や相談対応に使用しております。患者さまの状況により必要に応じ院内多職種（薬剤師、管理栄養士、MSWなど）と連携し支援しております。また、介護保険サービスの利用状況によっては、訪問看護師、ケアマネジャー等の地域の方々と連携をしながら、入院が始まる前から関わり、入院中～退院後まで切れ目なく支援していくことを心がけております。

今後は、入退院支援をこれまで以上に充実させ、入退院支援室を地域の方々とつながる場としても活用していきたいと思っております。コロナ禍ではございますが、当院へご来院の際にはお気軽にお越しいただければと思います。

これからも、より一層の地域連携を行い、地域で暮らす患者さまを支えてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



12月29日（水）は通常通り開院いたします。

（一部の科では診療制限がございます。）

詳細は当院ホームページでご覧いただくか、地域医療連携センターにご連絡ください。TEL 022-275-1467

人事異動のお知らせ

採用		
令和3年5月1日付	内科専攻医	高橋 浩彦
令和3年7月1日付	皮膚科医師	秋野 萌子

退職		
令和3年4月30日付	皮膚科医師	國方なぎさ
令和3年6月30日付	皮膚科医師	武田 佳奈

東北労災病院診療科案内

(2021年9月現在)

総合診療科

総合診療科部長 こやま 小山 じろう 二郎

人口の高齢化が進み疾病構成が大きく変化し、お一人で複数のご病気を持っている方、いわゆる多疾患併存の方がますます増えてきております。

また、医療を取り巻く環境が大きく変わってきており、介護の比重が高まってきております。

そのような患者さんたちを全人的・包括的に診療していくことが総合診療科の役割であり、使命であると考えます。その人の人生やご家族に寄り添い、その人の気持ちに共感しながら社会面や心理面からも診療する全人的なアプローチをしていきたいと考えております。

介護・福祉を含めた保健活動など地域全体を見据えて患者さん中心の満足のいく診療を行ってまいります。

〈地域包括ケア病棟〉

地域包括ケア病棟の常勤医師としても診療しております。レスパイト入院の必要なかたがございましたら、ホームページからご紹介いただければ対応させていただきますのでお気軽にご相談ください。

〈対象疾患〉

日常診療で、あまり自分に馴染みのない訴えだと不定愁訴と決めつけてしまいがちですが、実は身体疾患が隠れていることが多々あります。まずは患者さんおひとりお一人から、ゆっくり時間をかけてお話をうかがいたいと思います。

問診や身体診察で診断病名の可能性を検討し、必要な検査を行って診断に近づいていきます。そのうえで適切な診療科・施設への紹介など行います。

登録医の先生方へお願いですが、簡単でかまいませんので臨床経過、投薬歴など記載していただければたいへん助かります。診療経過や診断等につきましては追ってご連絡さしあげます。

いずれは登録医の先生方と顔のみえる関係であるよう症例検討の場など開催できたらと考えております。

何卒どうぞよろしくご願ひ申し上げます。

胃腸内科・内視鏡センター

胃腸内科部長 はまだ 濱田 しろう 史朗

部長・副院長 大原 秀一／部長 小島 康弘／副部長 白木 学、齋藤 晃弘、近藤 穰、半田 朋子／
医師 清水 貴文、齋藤 紘樹、武田 瑤平、今成賢士郎／非常勤 玉淵 泰史

日頃から胃腸内科及び内視鏡センターをお引き立ていただき誠にありがとうございます。

内視鏡センターでの上部消化管内視鏡検査は、予約なしでも対応しており、朝食を摂らなければ原則的に当日の検査が可能です。但し、待ち時間の苦手な方は日程調整の上で後日の予約をお勧めします。また内視鏡検査が苦手・苦痛と感じている患者様には適宜鎮静剤や細径の内視鏡を使用することで、苦痛のない検査を受けていただくことが可能ですので医師または看護師に気軽に相談してください。またご希望により経鼻内視鏡も可能です。

また一昨年度から仙台市でも内視鏡による胃がん検診が導入されました。当院でも多数受診されておりますが、本年度も電話予約の上ご活用いただければと思います。

大腸検査については検査食や下剤が必要なため予約制ですが、数週間も検査待ちになるようなことはありません。遠方に在住している場合や高齢で通院が困難な患者様には一泊入院の上で大腸検査を受けていただくことも可能です。

最近注目されている逆流性食道炎やピロリ菌の除菌療法についても解りやすい説明を心掛けておりますので、遠慮なく申し出てください。また食道がんや胃がん、大腸がんについてもがん診療連携拠点病院として長年多数の患者様に向かい合ってきた実績もありますので、診断から各種治療まで幅広く相談に乗ることができると自負しております。どうぞ安心してご相談ください。

また近年増加傾向にあるクローン病や潰瘍性大腸炎に関しても大腸肛門外科と連携してIBDセンターを立ち上げ、薬物療法などをはじめとする最新の治療を提供しております。ぜひIBD専門医にご相談ください。

ご不明な点は当科の医師・スタッフ等に遠慮なくお訊ねください。

肝臓科

肝臓科部長・副院長 ^{あべ}阿部 ^{なおし}直司

部長 小林 智夫、山川 暢

肝臓科は、消化器疾患のうち肝疾患、胆・膵疾患を担当しております。肝については、ウイルス性・代謝性・薬剤性・アルコール性などの様々な肝疾患を、急性期から肝硬変まで広く扱っております。以前から慢性C型肝炎症例が多数で、近年では経口剤（DAA）治療で高い奏効率を得ております。肝細胞癌の治療例も多く、経動脈的塞栓術・ラジオ波焼灼術などに加え分子標的治療薬を用いた治療も行っております。胆道系疾患の中では、胆嚢や胆管の結石が多数ですが、特殊な炎症・悪性腫瘍も増加しています。急性・慢性膵炎から進行膵癌まで、膵疾患にも幅広く対応しております。黄疸症例には、すべて対応可能ですので、御紹介ください。

糖尿病・代謝内科

糖尿病・代謝内科部長 ^{ときた}鴫田 ^{あい}藍

医師 久野 春奈、熊谷 絵里、今野 陽介、高橋 浩彦、萱場 瑤子／非常勤 中村 麻里

当科診療内容：糖代謝一般（低血糖含む）、シックデイ対応、急性合併症（低血糖昏睡、糖尿病性ケトアシドーシスなど）、術前～術後期血糖管理、外来インスリン導入、インスリンポンプ導入・管理など、肥満症（非糖尿病含む）糖尿病専門医数は3名であり、移植医療以外はすべての糖代謝に対応可能です。

レスパイト入院、緊急入院にも対応いたします。

入院が難しい患者様には外来で精査、治療を行います。入院を患者様が迷っていらっしゃる場合には当方で相談の上治療方針を決定いたしますのでご安心ください。

近年経口血糖降下薬、注射製剤、インスリンポンプや、血糖測定機器の進歩がめざましく最新医療に対応すべく病棟・外来スタッフにも研修を行い、診療スキルを常にアップデートしております。

また免疫チェックポイント阻害薬使用に関連した糖尿病や副腎不全の症例にも対応しております。

他科診療中の血糖管理や術後期管理などにも対応しておりますので糖尿病をお持ちの他疾患患者様が当院にご紹介となった場合には糖尿病管理もあわせて行えることが当院の強味と思います。

糖代謝は生命維持にとって最重要であり、数々の疾患の予後にかかわってきます。患者様とご家族様のためお役に立てると幸いです。

大半の糖尿病患者様は慢性の経過となっております。

そのため当科への初診に際しましては医療機関や検診センターからの紹介状を持参いただくか、もしくは事前に連携室宛にFAXか郵送をいただくようお願いしております。

ご紹介いただく先生方には大変なお手間をおかけしますが、ご理解ご協力を頂けると幸いです。

循環器内科

循環器内科部長 ^{たなか}田中 ^{みつあき}光昭

副部長 高橋貴久代／医師 宇塚 裕紀

当科では、循環器疾患全般（急性心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患、心不全、心房細動や完全房室ブロックなどの不整脈）に対応しています。

近年、心不全患者が増加し、今後はさらに増加していくと言われております（心不全パンデミック）。そのため、学会は「急性・慢性心不全診療ガイドライン かかりつけ医向けガイダンス」を作成し、心不全の診断だけでなく、予防や管理などを解説しています。これからは、心筋梗塞・心筋症・弁膜症など器質的心疾患患者だけでなく、高血圧や糖尿病などの危険因子を有する方も心不全発症予防が重要です。最近では、新たな心不全薬が登場し、治療が少し変わりつつあります。

一方、数年以上同じクスリを飲み続け、抗不整脈・ジギタリス・マグネシウム製剤などの中毒症状で、救急搬送される高齢者が散見されます。数年間循環器系の検査をしていない、クスリがずっと同じだけどいいのだろうか、など、日常診療で気になることがありましたら、当科で現状の心機能評価を行いますので、一度受診をおすすめ頂けると幸いです。

胸部症状を訴えるなど緊急性の高い患者さんは、循環器科外来あるいは当科医師に直接ご連絡ください。緊急性のない方は、地域連携室を介して予約をして頂けるとスムーズです。お待たせしないように最大限努めますので、ご紹介のほどよろしくお願ひ申し上げます。

高血圧内科

高血圧内科部長 むなかた 宗像 まさのり 正徳

副部長 金野 敏

暑い日が続いています。夏季は冬季に比べ血圧は低下します。利尿薬などは減量できる患者も多いですが、一気に中止したりすると、急に血圧上昇が起こり、特に血管が動脈硬化で脆弱となっている高齢者は危険ですので慎重な減量がのぞまれます。夏季においても血圧コントロール不良の高齢者では潜在的腎障害による食塩感受性亢進と意外な食塩過剰摂取が隠れていることが多く、正確な病態評価と丁寧な生活指導が望まれます。血圧コントロール不良な高齢者はぜひご紹介ください。また、肥満は高血圧のコントロールを困難にするのみならず糖代謝、脂質代謝異常も合併することが多く、先生方もご経験と思いますが、減量を進めない病態の本質的改善が望めないケースが多く見られます。当院では年齢、病態を問わず（精神疾患は除く）、肥満患者の減量入院加療を行っておりますので、希望の患者がおられましたらご紹介ください。ご紹介いただく場合、地域連携室を通し、水曜日にご予約をお願いします。

腎臓内科

腎臓内科副部長 かんだ 神田 まなぶ 学

医師 伊藤 圭祐

平素より大変お世話になっております。

腎臓内科では検尿異常や腎機能障害（急性/慢性）の精査・生活指導など幅広く腎疾患の診療を行っております。また、慢性腎臓病の診療においてはスムーズに各種腎代替療法を行えるよう、患者さんへの丁寧な説明を心がけております。

透析領域においては、外来透析の他、入院透析、自家静脈内シャント作製、腹膜透析外来を行っております。入院透析では透析新規導入、透析患者さんの合併症による入院の他、持続緩徐式血液濾過や血漿交換、吸着式血液浄化法など各種急性血液浄化療法も行っております。また、介護者の疲労や入院に伴うレスパイト入院も2週間単位で受けております。

様々な疾患・病態に対し、各診療科と連携し診療にあたっております。

ベッド数が少ないことと、勤務体系から土曜日の透析が難しく火木土の透析を通常は行っていないことから入院透析の人数は限られてしまいますが、可能な限り受け入れをしておりますのでいつでも御相談ください。

腫瘍内科

腫瘍内科第二部長 もりかわ 森川 なおと 直人

部長 丹田 滋/医師 渡部 康也/非常勤 佐藤 悠子

当院腫瘍内科は、消化器がん、乳癌を中心に周術期治療から進行・再発、終末期ケアまで幅広い診療を行なっています。また悪性リンパ腫についても小野寺晃一先生（東北大学病院血液内科）にご指導いただきながら化学療法を行なっております。「地域に根ざしたGeneral medical oncologist」として、専門性をもちつつ幅広い腫瘍に対応できる診療科を目指しています。

この1年では、地域の先生方より骨転移やリンパ節転移で見つかった原発不明がんの患者さんをご紹介いただく機会が増え、診断から治療に至るまで一貫して取り組んでいます。また、総合病院の強みを生かして、免疫チェックポイント阻害剤やエンハーツ（r）など施設要件のある薬剤の投与についてもご紹介をいただいています。一方で、退院後の往診管理や、定位放射線治療、脳神経の合併症など当科からご紹介するケースも増えており、「双方向性の地域連携」を目指して有機的な連携を行なっていく所存です。

2021年度は1年を通じて内科専攻医の配置ができたため、病棟診療および救急対応において、診療体制が厚みを増しました。今後も、常勤医・研修医ともさらに充実するよう取り組んでまいります。引き続きよろしくお願いたします。

当院の緩和ケアには以下のような特長があります。引き続き当院へのご紹介をよろしくお願い申し上げます。

- 1) 総合病院の中での緩和ケアの利点
 - ・病初期より終末期までの一貫した完結型のがん治療が可能。
 - ・抗がん治療期より支持的治療に介入。
 - ・がん患者の苦痛を、外来では自記式、入院ではSTAS-J方式でスクリーニングし、漏れのない拾い上げ。
 - ・週5日の外来を開いていることで主治療科との同日併診が可能。
 - ・非がん患者（心不全、呼吸不全、腎不全）の緩和ケア
- 2) 県内で最も強力な緩和ケアチーム活動
 - ・チームによるアドバンスケアプランニング支援。
 - ・チーム（緩和ケア内科医、腫瘍内科医、乳腺外科医、麻酔科医、心療内科医、認定看護師、専門薬剤師、公認心理師、管理栄養士、MSW、がん相談員、音楽療法士、ボランティア）の週1回のカンファレンスと週3回の院内回診。
- 3) 緩和ケア病棟では得られない利点
 - ・緩和ケア病棟ほど厳しくない入棟条件。
 - ・CART、輸血、中心静脈栄養など必要に応じて対処
 - ・在宅支援診療所との切れ目のない連携体制
- 4) プラスアルファのサービス
 - ・特に乳がんが多いAYA世代の患者へのがん相談員によるサポート。音楽療法のサービス、ボランティアによる傾聴などの積極的患者支持システム。
- 5) なお、緩和ケア病床は個室での対応になりますので個室料が必要です。また1回の入院期間は原則1ヶ月以内としております。

呼吸器内科

呼吸器内科第二部長 まがばら 榊原 ともひろ 智博

部長・院長代行 三浦 元彦／副部長 田代 祐介／医師 中村 優、大塚 竜也、谷津 年保、阿部 武士、竹田 俊一、大友 梓

現在呼吸器内科にはスタッフ7名が在籍しており、日々の診療にあたっています。平日夜間、休日対応に関してもスタッフによる当番制としており、当直医と協力して可能な限り診察を行っています。呼吸器内科として対応可能な疾患は肺炎や気管支喘息、COPDなど患者数が多い一般的な疾患から、肺癌、間質性肺炎、気胸など専門的な検査、治療を要する疾患、また労災病院として塵肺やアスベスト関連疾患など職業に関連した疾患まで、呼吸器疾患のほぼ全てに対応して診療しています。

外来を受診する患者さんの主訴として多いのは、長く続く咳嗽、喀痰の他、呼吸困難などです。また症状がなく検診などで胸部異常陰影、胸水などを指摘され紹介される患者さんも数多くいます。それらの患者さんを診断するための検査として特に重要なのは画像検査（胸部単純写真、胸部CT）、呼吸機能検査、気管支鏡検査です。外来では画像検査、呼吸機能検査を主に行っており、特に呼吸機能検査は気管支喘息やCOPDの診断に欠かせません。通常の呼吸機能検査に加えて気道可逆性試験、呼気NO検査、気道過敏性試験も行っており気管支喘息、COPD確定診断のための一助となっています。気管支鏡検査は主に肺癌診断のために入院で行っていますが、EBUS-GS、EBUS-TBNA、パーチャル気管支鏡など肺癌診断率向上のために新しい技術を導入し、さらに実際の検査時には鎮静剤をルーティンで使用して、患者さんの苦痛軽減にも努めています。また原因不明の胸水精査のための胸腔鏡検査による胸膜生検も行っています。

現在の呼吸器疾患の診療においては、他科との連携が非常に重要となっています。特に肺癌の治療に関しては呼吸器内科だけでは適切な医療は提供できず、呼吸器外科、放射線治療科、緩和ケア内科、病理部などの各科と協力して診療を行っています。各科との協力により肺癌の診断から手術、放射線治療、化学療法、緩和医療（疼痛コントロールなど）まで当院で適切な肺癌治療が一貫して行えるようになっていきます。

このように多種多様な呼吸器疾患に対応していますが、呼吸器疾患は急を要する場合があります。急を要する紹介の際には、電話などでご一報いただければ、できる限り当日対応しています。余裕がある場合は紹介状をご用意いただき、平日午前の外来に紹介いただければと存じます。呼吸器疾患が疑われる場合には是非呼吸器内科にご紹介ください。

呼吸器外科

呼吸器外科部長 ほさか 保坂 ともこ 智子

呼吸器外科は常勤医は1人ですが、手術は東北大学病院呼吸器外科の医局のお力をお借りしながら行っています。

2008年7月に小生が当院に赴任してから13年が経ちましたが、これまでに術関連死は1例もありません。

対象疾患は、呼吸器疾患全般であり、原発性肺癌、転移性肺腫瘍、若年者から高齢者までの気胸、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍、膿胸、間質性肺炎疑いの肺生検等で、手術が中心ではありますが、その他、外傷性多発肋骨骨折による血気胸の診療も行っております。

手術は、できるだけ低侵襲な手術を心がけ、胸腔鏡を使用し、術後の痛みが軽減できるよう心がけております。

縦隔腫瘍のうち前縦隔腫瘍は、以前行っていた胸骨正中切開アプローチであれば胸骨が癒合するまで半年以上の運動制限がかかっておりました。しかし、症例によっては、胸腔鏡下に炭酸ガスを送気し、人工気胸下で3ヶ所ないし4ヶ所の小切開で手術をし、術後数日で退院が可能になっています。

若年者の気胸は、2～3ヶ所、1.5cmほどの小切開での手術を行い、術後2～3病日には退院が可能です。

また、当院では基本的に術後も術前と同様の生活ができるように患者さんのQOLを上げるため、呼吸リハビリを積極的に取り入れております。入院当日～手術前日、術翌日～退院日まで理学療法士がマンツーマンで呼吸法、排痰法等の指導、筋肉が拘縮しないような運動を行います。

基本的には外来は月曜日、金曜日ですが、緊急を要する患者さんの場合は、直接ご連絡いただけましたら、速やかに対応させていただきます。

今後も頑張りますので、様々な患者様をご紹介しますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

リウマチ科

リウマチ科部長 はたけやま 畠山 あきら 明

第二部長 加藤 一郎

2021年8月より当科非常勤医の応援がなくなり常勤医2名になり、約1200名の患者様の診療を行っています。疾患の内訳は、半数強が関節リウマチで、残り半数弱がその他の膠原病・膠原病類縁疾患であり、全身性エリテマトーデス、強皮症、シェーグレン症候群、混合性結合組織病、多発性筋炎／皮膚筋炎、脊椎関節炎、リウマチ性多発筋痛症、掌蹠膿疱症性骨関節症、血管炎症候群、成人スティル病、再発性多発軟骨炎などとなっています。

このように、これまで当科では、リウマチ膠原病全般の診療に当たらせていただきましたが、常勤医の高齢化や体調面の問題に加え後任不足、働き方改革の影響、膠原病診療に必要な専門診療科の不足（血液内科や神経内科など）に対し求められる医療の高度化など、諸般の事情で、現在の人員でこれまでと同様の医療の提供が難しくなっているのが実情です。そのため、現在は基本的には関節リウマチ以外の膠原病の診療を停止しております。ご迷惑をおかけいたしますが、当面はご容赦いただければ幸いです。

関節リウマチに関しては、関節MRI、関節エコーを用いて早期診断を心がけ、また、早期の臨床的、構造的寛解の達成を目標に、リスク評価を行った上で、生物学的製剤・JAK阻害剤を積極的に導入しております。また、当院の整形外科とも連携し、最先端の医療を提供できるよう努力して参りたいと思います。

病状の安定した患者様は、近隣の先生方に連携をお願いしたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

心療内科

心療内科部長・勤労者メンタルヘルスセンター長 まちだ 町田 たかつぐ 貴胤

副部長 町田 知美

2019年4月から心療内科が医師2名体制となり、12年間勤務した東北大学病院心療内科での経験を活かして診療を行っています。対象疾患は心身症、ストレス関連疾患、摂食障害、機能性消化管障害など多岐にわたり、検査で異常がない原因不明の身体症状、いわゆる Medically-Unexplained Symptom の診療も専門にしています。病態が良く分からず、何科に紹介すべきか迷うような総合診療的な症例にも対応しておりますので、ぜひ御相談下さい。

体制変更に伴い入院治療も積極的に行っており、特に摂食障害についてはBMI<10のような最重症例から軽症例に対する教育入院まで幅広く対応しております。県内で心療内科の入院治療を行っている施設は東北大学病院以外では当院のみであり、県内外を問わず入院患者を受け入れたいと考えております。

この連携だよりをお読み頂いた先生方からの御紹介を、心よりお待ちしております。

小児科

小児科部長 ちば 千葉 あし 靖

部長 高柳 玲子、沼田 美香／非常勤 小島三千代、及川 智子

東北労災病院小児科は、仙台北部地域を中心とする仙台圏の医療機関よりご紹介いただいた小児の診療を主に行っております。感染症の診断と治療は当科の最大の強みです。小児科常勤医3名全員が小児感染症学会認定医であることを生かし、綿密なディスカッションをもとに、ひとりひとりに適切な診療を行うことを心がけております。できる限りその日のうちに病原診断を行い、治療方針を決定するよう努めています。さらに耳鼻咽喉科との協力のもと、急性中耳炎をはじめとする合併症の早期治療に力を入れています。

一方、小児科常勤医1名が日本腎臓学会専門医であることから、血尿・蛋白尿等の尿異常、尿路感染症、夜尿症等の小児腎尿路疾患の診断と治療も当科の柱です。さらに当院は、仙台市3歳児健康診査における検尿制度の二次精密検査施設（腎臓専門医療機関）の指定を受けており、一次精密検査からの陽性者をご紹介いただくことで、先天性・遺伝性腎疾患など慢性腎臓病ハイリスク児の早期発見に努めています。

また、周辺地域からの育児支援の希望が強いことから乳児健診にも力を入れており、生後1カ月児より積極的に受け入れております。乳児健診と併せて行っている予防接種、栄養指導、育児相談も好評をいただいています。皆様のご期待に沿える小児科を目指しておりますので、是非当科へのご紹介をご考慮いただきますようよろしくお願いいたします。

なお現在、新型コロナウイルスへの対策として、発熱もしくは呼吸器症状がある小児およびご家族は、病院北側に設置中の「発熱者専用入口」から小児科隔離室へ直接ご案内しております。また、小児科専用の「新型コロナウイルス対策子どもと家族問診票」へのご記載をなるべく病院到着までに完了いただくようお願いしています。ご紹介をお考えの際は、まずお電話でご相談いただければ幸いです。ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

消化器外科

消化器外科部長 なるしま 成島 よういち 陽一

院長 徳村 弘実／内視鏡外科部長 松村 直樹／肝胆膵外科部長 野村 良平／副部長 本山 一夫、齋藤 匠／
医師 平嶋 倫亮、小野 翼、佐藤 馨

はじめに連携医の先生方には日頃から多くの患者さんをご紹介いただき、また多方面でたいへんお世話になっておりますこと、この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

消化器外科の紹介の前にお知らせがあります。当院外科は消化器外科・大腸肛門外科・乳腺外科の構成で、外来は同じ窓口・スタッフで診療にあたっていましたが、2021年7月に乳腺外科の外来が二階の婦人科との合同窓口に移りました。患者さんの利便性向上につながるものと期待しています。

消化器外科・大腸肛門外科2020年の手術実績は752例で、胃・大腸手術（主に悪性腫瘍）134例、胆石などの胆道疾患158例、ヘルニア（137例）などの良性疾患手術のほか肝切除術・胆膵悪性腫瘍手術42例、虫垂炎（72例）・腸閉塞（22例）などの緊急疾患も多く行っています。腹部手術の6割以上が腹腔鏡下で行われています。創が小さく術後の回復にも優れている腹腔鏡下手術ですが、症例によっては極めて高度な技術を必要とすることがあります。消化器外科では1990年代はじめにいち早く腹腔鏡下胆嚢摘出術に取り組み、以来腹腔鏡下手術においては東北地方の先駆的施設として、手術手技の向上・普及に努めてまいりました。現在、医師8名、診療看護師1名の計9名のスタッフを、下部消化管（松村直樹）、上部消化管（本山一夫）、肝胆膵・ヘルニア（野村良平）の3領域にそれぞれ内視鏡外科技術認定医をリーダーとして配するチーム制をとっています（本稿執筆時は2チーム体制）。日常診療において様々な状況で迅速に対応できるなど、安心・安全な外科治療の実現を目指しています。また根治性と安全性を両立した手術レベルの維持・向上と、若手後進の育成に寄与するものと考えています。下部直腸癌では、通常の腹腔からの操作に加え、肛門からもカメラと鉗子を挿入し直腸と直腸間膜を切除する経肛門の直腸間膜切除術（TaTME）を行っています。腹腔鏡下肝切除術、一部の腹腔鏡下膵切除術も当科では保険診療で手術が行える施設認定を受けています。鼠経ヘルニアでは、患者さんの病状・状態を充分精査して、前方からアプローチする手術や腹腔鏡下手術など麻酔法方法も含め最良の手術方法を提供しています。

患者さんには安心して手術を受けられますよう、また連携医の先生方には安心して患者さんをご紹介いただけますよう、外科スタッフ一同誠心誠意努めてまいります。今後とも労災病院外科を宜しくお願い致します。

大腸肛門外科

大腸肛門外科部長・炎症性腸疾患センター長 たかはし けんいち
高橋 賢一

副部長 羽根田 祥

大腸肛門外科は、炎症性腸疾患の外科治療と各種肛門疾患の外科治療を二本柱として診療を行っています。

炎症性腸疾患には潰瘍性大腸炎とクローン病があり、いずれの疾患も薬物など内科治療により炎症の落ち着いた状態、すなわち寛解状態に導入して、これを長く維持することが治療の原則となります。外科手術はこうした寛解導入や寛解維持が困難な場合に必要となり、潰瘍性大腸炎では疾患の根治と肛門温存の両立を図るための大腸全摘・回腸肛門吻合術が標準術式として行われます。またクローン病では狭窄や瘻孔など腸管合併症に対する腹部手術が行われ、また高率に合併する痔瘻など肛門部病変に対する肛門手術が行われます。当院では大腸肛門外科と胃腸内科の専門医で炎症性腸疾患センターを設立し、内科と外科の緊密な連携を図りながらこれら炎症性腸疾患の外科治療を多く手がけています。また炎症性腸疾患では学業や就労など社会活動にかかわる若年の患者さんが多いという特徴がありますが、早期の社会復帰を果たせるよう低侵襲な腹腔鏡手術の積極的な実施や、適確な周術期感染対策実施による術後合併症の予防に努めています。またきめ細かな術後復職支援を行っていることも当院の特徴になります。

肛門疾患では、いぼ痔（痔核）や切れ痔（裂肛）、痔瘻といった三大肛門疾患の手術に加え、直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術も多く手がけています。当院の特色としては、肛門内圧測定や排便造影などの専門的な直腸肛門機能検査を行っていること、全身麻酔での手術も行えることから心疾患等で抗凝固薬内服中の患者さんの手術にも対応できることが挙げられます。「たかが痔。」と軽く捉えられがちな肛門疾患ですが、その背景に思わぬ悪性腫瘍や炎症性腸疾患が潜んでいる可能性もありますので、軟膏外用などの保存的治療にて肛門症状の改善しない患者さんはぜひ当科への紹介をご検討ください。

大腸肛門外科の新患外来日は火曜日となりますが、内科治療抵抗性の炎症性腸疾患など症例の相談については随時対応可能ですので、お早めにご連絡をいただければ幸いです。

乳腺外科

乳腺外科部長・乳腺センター長 ほんだ ひろし
本多 博

医師 千年 大勝、鶴見菜摘子／非常勤 吉田 清香

当院は日本乳癌学会の認定施設で、COVID-19による医療逼迫の中、登録医を始め多くの医療機関より患者さんのご紹介をいただき、乳腺疾患の手術・治療を行うことができたことをこの場を借りて皆様に深謝申し上げます。

最近の変化としては、2020年4月より乳腺外科に特定看護師（NP）の大學が加わり、手術助手や処置を中心に活躍しています。更に2021年4月から鶴見菜摘子（9年目）を迎えて、本多・千年大勝の2名体制から4名のチームとなりました。引き続き、豊島隆先生（仙台乳腺クリニック）並びに吉田清香先生（乳腺専門医：木曜外来）にご協力いただいております。更に2月に最新の超音波装置が入ったこともあり、7月より外来を2階婦人科のスペースに移設し（2室専用）、水曜午後枠を新設して全日急ぎの依頼にも対応できるようにいたしました。

当科の乳がん診療の特色として以下の2点が挙げられます。

- 1) 病理医3名（常勤2・非常勤1）の強みを活かして、RI・色素法併用によるセンチネルリンパ節生検（2mm切片検索）と温存術切除断端（4方向）の迅速病理診断を行い、高い同定率と正確な診断で郭清省略とリンパ浮腫予防に加え、根治性を高めています。また、病理技師の協力もあり、針生検で約1週間・手術標本で約2週間以内に免疫染色を含む病理結果をお伝えしています。
- 2) 乳腺センターとして、週1回、腫瘍内科・緩和ケア内科・放射線治療医、看護師（乳がん看護・がん化学療法看護・緩和ケア認定）、薬剤師に、両立（就労）支援コーディネーター2名を加え多職種による乳腺カンファレンスを行い、チーム医療で患者さんに最適な治療・支援を受けていただく体制を構築し、きめ細かい対応と情報共有並びに患者さんの社会復帰に努めております。また、術前・術後化学療法（特にdose dense治療）や免疫療法等は腫瘍内科、照射は放射線治療医、再発後のケアは緩和ケア内科と協同で対応しています。

乳房再建は東北大学形成外科と共同で行い、19年からは特別認定施設の認定を受け、二次再建等も可能となりました。18年より当科患者さんを対象にHBOC（遺伝性乳がん卵巣がん症候群）のスクリーニング及び認定遺伝カウンセラーの安田さん（非常勤：石巻赤十字病院）による遺伝カウンセリング（月1回）を行い、院内でBRACA検査等に対応しています。また、リハビリ科・作業療法士（OT）の協力により、乳がん手術全例に術前・術後評価を含むがんリハビリ体制が確立しました。19年から体脂肪量（乳がんリスク因子）の減少を目的に管理栄養士による栄養管理・InBody測定を行い、チーム医療の輪を拡げております。

AYA世代へのサポートとして、'20年2月には当院にてPink Ring Summit（若年者乳がんの会）を開催できましたが、コロナ禍において、患者サロン・患者会の充実やピアサポート対応が今後の課題と考えます。

受診には原則紹介が必要とさせていただき、新患の方は地域医療連携センターにてご予約可能であり、枠を増やして

お待たせしないよう最大限努めております。紹介状があれば、月木金午前に予約なしで受診可能としておりますが、予約優先にてお待ちいただくことをご容赦下さい。今後ともご紹介を何卒よろしくお願い申し上げます。

【年別手術例数】

	原発乳がん(うち両側)	温存(率)	全摘	乳房再建(TE)	再発など悪性	良性・その他	計
2018年	117 (1)	67 (57%)	51	7	2	21	140
2019年	159 (1)	80 (50%)	80	6	9	19	187
2020年	142 (0)	81 (57%)	61	7	9	13	166

救急科

救急科部長 あかだ まさのり 赤田 昌紀

救急科が発足し3年が経過しました。昨年度からの新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度と、今年度の前半は応需が厳しい状態がありましたが、すべての2次救急疾患に対応し、当院周辺・青葉区北部地域や当院かかりつけ患者が遠方に搬送されることなく地域内で医療が完結できることを目標に年々救急車応需数は増えており、現在は年間3500台程度で推移しています。

外来の体制

当院では半ER型の救急外来システムをとり、院内各診療科及び東北大学救急医学教室の協力も得て24時間体制で救急車を受け入れられるよう体制の整備しております。

月～木の8:15-17:00は 救急科部長(兼)第二外科部長 赤田、金曜日は大学病院救急専門医が主として救急車の対応を行います。夜間、休日は 内科系、外科系医師各1名、臨床研修医2名の計4名で救急対応を行います。

基本的には救急車の受け入れのみとなります。救急外来では初療を行いバイタルサインを安定させる事に注力しますが並行し診断を進め、適切と思われる診療科に紹介し病院全体として継続して治療を進めてまいります。

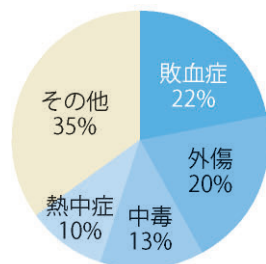
敗血症、外傷、中毒などは救急科が担当で入院治療を行うこともあります。

また、継続してどんな疾患でも診察できるように病院体制の整備を進めているところではありますが、常勤医不在の診療科もあり、当院において応受することの出来ない疾患もあり、以下に記します。

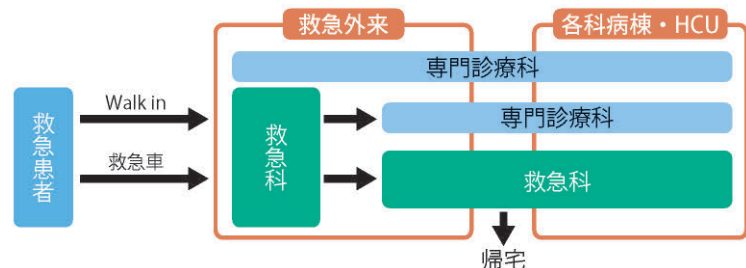
- ・重症熱傷 ・四肢切断 ・婦人科疾患 ・特殊感染症(結核、AIDS、エボラ出血熱など)
- ・中枢神経感染症 ・血管系病変(大動脈解離、SMA塞栓等)

当院に救急搬送される際は、担当診療科もしくは救急科までご一報頂けましたら幸いです。

救急科入院患者の内訳



当院の救急システム 半ER型



整形外科

整形外科部長・副院長 のぶた しんご 信田 進吾

部長・院長代行 井樋 栄二/脊椎外科部長 日下部 隆/関節外科部長 小河 裕明/
 副部長 松谷 重恒、奥野 洋史、松澤 岳/医師 國井 知典、佐藤 諒、原田 健登、國井 知典/
 非常勤 三浦慎次郎、大野木孝嘉

当科における2020年度(2020.4.~2021.3.整形外科医師8名)の年間手術件数は1039件、月平均新患者数は220人、月平均新入院患者数は93人と、前年度と比べて減少しましたが、これは新型コロナウイルス感染拡大のため、昨年4月から6月の手術数、入院数の減少のためです。2021年4月から2名増員となり、東北大学整形外科前教授・井樋栄二先生も赴任され、整形外科医師10名の体制となりました。脊椎外科班は日下部、松谷、原田の3名が担当し、頸椎症性脊髄症、腰部脊柱管狭窄症等の変性疾患、脊椎外傷ならびに脊椎脊髄腫瘍の手術も行なっています。関節外科班は井樋、信田、小河、奥野、松澤、國井、佐藤(諒)の7名で、肩・肘・下肢の人工関節置換術、リウマチ関節外科の手術、肩関節・膝関節の関節鏡視下手術、四肢の骨折・脱臼の治療も行い、末梢神経障害に対する神経剥離術・移行術、機能再建術も行います。四肢の切断・再接着は仙台医療センターに依頼、悪性骨軟部腫瘍は東北大学病院へ紹介します。脊椎・四肢の外傷、骨折はなるべく臨時で手術を組めるよう尽力しますので、患者さんのご紹介をお願い申し上げます。

当科への患者さんのご紹介は地域医療連携室を通していただければ円滑に進みますが、手続きが面倒な場合やお急ぎの時には直接ご連絡いただければ、可能な限り対応させていただきます。

部長 高橋 智子

当科は主に脳卒中の診療を行います。頭部外傷やてんかんなども診察し、必要であれば入院加療にも対応しております。当院にはCT, MRI, SPECT, 頸動脈エコー、脳波など脳卒中やその他の頭蓋内疾患の診断に必要な機器は揃っており迅速な診断と治療の開始が可能です。

脳卒中の患者さんは手術ではなく保存的治療の適応になることが多く、そのような保存的治療の対象となる患者さんの入院加療を行っておりますが、穿頭術にも対応しておりますので慢性硬膜下血腫の患者さんの手術も受け入れ可能です。脳疾患は診断がつきづらいものです。もしかしたら頭かも？と思ってもなかなか脳神経外科へ相談しづらいこともあります。当科ではそのような患者さんの鑑別も含めて診察しておりますので気軽にご紹介ください。

皮膚科

皮膚科部長 たにた 谷田 むねお 宗男

医師 谷田 佳世、秋野 萌子

〈診療科の特色〉

皮膚疾患全般を幅広く取り扱っています。患者の皆様には日本の現代皮膚科の標準治療をします。その上で皆さまの意志や日常生活における満足度を尊重した治療方針の選択を常に心がけます。

〈診療内容〉

◎外来診療について

皮膚科外来受付は午前8時15分～午前11時となっております。午後は手術や検査などの予約のため外来の再来は行っていません。また毎週水曜日は手術のため、午前10時までの受付になっておりますのでご注意願います。

外来の診療は基本的には予約制となっておりますが、予約なしでも診察はできます。そのかわり待ち時間が長くなります。予約につきましては、電話での予約は行なっておらず、診察のときに次回の予約をとるシステムになっています。予約をお持ちの方で都合が悪くなり変更を希望する方は、午後3時～4時30分に皮膚科外来にお電話をいただけますと変更が可能です。

また初めて受診される患者さんは、かかりつけの医師に紹介状を書いてもらわないで受診されると、病院での支払いが5,400円高くなります。紹介状を持って受診されることをおすすめします。

他院からの紹介や新患人数が非常に多く 予約患者人数が飽和状態になっております。そのため予約時間がありまして待ち時間がかなり長くなっており大変申し訳ありません。当院は急性期の疾患を扱うことを主としており、症状が落ち着いた場合には紹介元の病院に逆紹介をしたり、信頼できる開業医の先生に今後の加療をお願いすることがあります。診察時にご相談ください

〈当科の特色〉

- ・外来通院加療のみならず、適宜入院加療を行っております。
- ・紫外線療法（Narrow-band UVB療法）を行っております。
- ・自費診療として男性型脱毛症の内服治療、睫毛貧毛症の外用治療も扱っております。

〈当院で取り扱っていない疾患〉

各種レーザー治療、美容皮膚科、ケミカルピーリング、ピアッシング、爪のワイヤー療法、腋臭症手術、多汗症の外科治療、褥瘡の外科的治療、ケロイドの手術療法などは行っておりません。大変申し訳ありませんが、このような場合は適切な他の機関へ紹介させていただいております。また悪性黒色腫の治療は東北大学病院皮膚科に紹介しております。

〈主な検査・医療機器〉

- (A) 全身型紫外線照射装置：8面からくまなく光線を照射する装置で乾癬や難治性皮膚炎の治療に使用します。ナローバンドUVBとUVAがあります。

泌尿器科

泌尿器科第二部長 ^{あべ}阿部 ^{ゆうこ}優子

部長 浪間 孝重／副部長 櫻田 祐／医師 梅本 秀俊／非常勤 島谷 蘭子

泌尿器科は腎 尿管 膀胱 男性生殖器を治療対象としております。感染症、腫瘍、外傷、排尿障害などの機能障害、の診断から治療までを一貫して行っている科です。

外来は2人体制で月曜日から金曜日まで、火曜日と水曜日は原則午前のみ外来ですが、そのほかの曜日は午後も診療を行っています。

悪性腫瘍は腎癌 腎盂尿管癌 前立腺癌 膀胱癌 精巣腫瘍に対する手術 化学療法を行っております。ここ2-3年の新しい治療として、腎癌 尿路上皮癌 一部の前立腺癌については、手術不能例や化学療法無効例などの症例に対して、免疫チェックポイント阻害剤治療が適応になりました。当科でもこの治療を受ける患者さんの数は増加しております。抗癌剤の化学療法とは違った種々の副作用の発現の可能性があり、時には総合病院のメリットを生かし、各科にコンサルトして助言を仰ぎながら対策しております。

結石、悪性腫瘍由来の尿管閉塞疾患で他の医療機関から紹介いただくことがしばしばあります。尿管ステント挿入 腎瘻増設等の尿路変更による閉塞解除術を行っておりますが、尿管カテーテルについてはカテーテル材質の改善も目覚ましく、より長期使用できるカテーテルを（病態を選んで）、使用することができるようになりました。

過活動膀胱は（TVなどで取り上げられることもあり）、少し以前から知られてきた疾患です。行動療法 薬物療法の他に、難治性症例に対してボツリヌス毒素の膀胱壁注入療法が保険認可され、当院でも治療を開始いたしました。

従来通り、婦人科と協力して骨盤臓器脱の治療や尿失禁治療にも対応しています。

疾患的に中高齢の方が多いのですが、小児の包茎 夜尿症などの治療も行っております。高齢、認知機能障害のある入院患者さんについては治療だけでなく、退院後の生活についても、家族、ケアマネージャー、かかりつけの医療機関等と協力して対応に取り組んでおります。

常勤4名 非常勤1名の医師で診療にあたっておりますが、新患の患者さんはなにかとお待たせする時間が長くご迷惑をおかけしています。

産婦人科

産婦人科医師 ^{あべ}阿部 ^{ゆうや}祐也

2021年4月から月、水、木の週3回の外来診療を行っています。水曜日は東北大学産婦人科の医師が、月曜日と木曜日は私が担当しています。新患は水曜日は午前に、月曜日と木曜日は午後に受付しています。新患受付時間が異なりますので、御紹介の際は予約を入れていただくとありがたいです。

月経困難症、更年期障害、子宮がん検診の2次検診、骨盤臓器脱などを主に診療しています。

現在は産婦人科の手術を行っていませんが、泌尿器科で骨盤臓器脱の手術をしていただいておりますので、子宮脱や膀胱瘤等の骨盤臓器脱は泌尿器科にも相談のうえ治療を行っています。子宮筋腫や卵巣腫瘍などの経過観察中に手術が必要になった場合には、手術可能な施設へ紹介しております。

分娩を取り扱っていませんので、原則として妊婦健診は行っておりません。

また、不妊症関係も諸設備が十分整っておりませんので、排卵誘発までの治療となっております。

診療が縮小して御迷惑をおかけいたしておりますが、今後ともよろしくご厚意申し上げます。

医師 星 佳佑

いつも大変お世話になり誠にありがとうございます。

当科の特徴としては、白内障手術とメディカル網膜の診療があげられます。

白内障手術はすべて入院で行っており、局所麻酔は1泊2日、全身麻酔は2泊3日入院です。全身疾患をお持ちの方も他科と連携して対応しております。入院での白内障手術をご希望の方がいらっしゃいましたら是非当科へご紹介下さい。

メディカル網膜の診療については、東北大から網膜専門医の応援も頂きながら、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症などに対応しております。当院は糖尿病代謝内科があることから糖尿病網膜症の方が多いため特徴です。

抗 VEGF 製剤の硝子体注射、ステロイドテノン嚢下注射、網膜光凝固術などを組み合わせて最善の治療を目指しております。手術適応のある方はすみやかに東北大学病院へご紹介させて頂いております。

設備としては、IA 可能な眼底カメラ、眼底 OCT、ヘスチャート、ハンフリーフィールドアナライザー、ゴールドマン視野検査、パターン照射可能なマルチカラーレーザー光凝固装置、YAG レーザー、ERG (setERG, multifocal ERG も可能)、波面センサー (KW-1W)、フレアセルメーターなどの機器もそろっておりますので、幅広く対応可能です。

当科外来は予約制となっております。連携センターを通じて初診予約をおとり頂きますと、待ち時間も少なくなりますので、是非ご利用下さい。緊急の際は電話でご相談頂ければ適宜判断させて頂きます。スムーズな診療のため、ご協力のほど何卒よろしくお願い致します。

今後も地域の中核病院として役割を果たしていきたいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

部長 織田 潔 / 医師 白倉 真之、鶴沼むつ貴、戸塚 大幾 / 非常勤 大山 健二、入間田美保子、松谷 幸子

耳鼻咽喉科医5名(専門医4名うち専門研修指導医2名)で、耳鼻咽喉科の全領域を対象とした診療を行っています。新型コロナウイルス感染症禍の影響を受けたこの1年でしたが、最近は例年通りの実績(外来患者数平均65人/日、入院患者数約16名/日、手術室での手術件数約40件/月)に戻りつつあります。

- ①特に力を入れているのが耳疾患の治療です。慢性中耳炎に伴った難聴の聴力改善手術や真珠腫性中耳炎に対する鼓室形成術の症例が多く、最近は低侵襲な耳内視鏡下手術(TEES)の適応も拡大してきており、良い治療成績をあげています。重度の難聴に対しては人工内耳手術を積極的に行い、東北地方では最大の症例数となっています。
- ②鼻疾患においてはオリンパス社の4K内視鏡のクリアな術野のもと精密で安全な鼻内視鏡下手術を遂行しています。指定難病となった好酸球性副鼻腔炎の手術治療も積極的に行っており、内科的治療も含め患者さんのQOLを上げるような治療を心掛けています。
- ③また喉頭疾患として、早期喉頭癌手術(CO2レーザーを用いた鏡視下喉頭悪性腫瘍切除)や音声障害を改善する音声外科手術(喉頭微細手術、喉頭枠組み手術)を行っています。さらに唾液腺、甲状腺、頸嚢胞といった頸部手術の経験も豊富です。

当院の地域連携室を通じた外来予約枠は火・水・木曜日にありますので、是非ご利用いただきたいです。当日でも紹介状を持参していただいた場合は、待ち時間はご容赦いただいた上で対応いたします。

非常勤 中尾 真理

診療科の特色

労災病院のリハビリテーションは、脊髄損傷などに代表されるような、労働災害で障害を負った患者さんのリハビリの長い歴史があります。よって経験豊富なりハビリスタッフと充実した設備を保有しています。また当院は東北でも有数の整形外科の基幹病院で、スポーツ整形、脊椎外科、関節外科など充実しており、そのリハビリが行われています。脳血管疾患も脳神経外科・脳卒中科常勤医師2名体制で、脳卒中のリハビリを行っています。

外科手術後の患者さんの早期離床・早期退院に貢献するリハビリや、内科・外科の重症患者さんの廃用症候群の予防や回復を図るリハビリを行っています。

特に循環器疾患に関しましては、心臓リハビリ指導士3名の体制で、心大血管術後の特に合併症のある方の入院リハビリや、狭心症・心筋梗塞・心不全の再発予防を図る外来通院リハビリなどを行っています。循環器疾患患者さんのリハビリでは、可能な方には心肺運動負荷試験を行って、科学的評価に基づいた安全なりハビリの実践に努めています。外来心臓リハビリ前にリハ医が必ず診察し、リハビリ施行前の状態を確認してから行っています。

また、がん拠点病院として、担癌患者さんのリハビリにも努めております。特に乳がん患者さんのリンパ浮腫や拘縮の予防・治療のリハビリなどを積極的に行っています。

高齢化によって誤嚥性肺炎の疑われる患者さんの嚥下の評価（嚥下造影など）や訓練も需要も増しております。

〈診療内容（リハビリ対象疾患、すべてに対応）〉

- ・脳卒中、脊髄損傷などの脳神経系疾患（急性期から回復期まで、**Botox治療**も施行）
- ・骨関節筋疾患（切断、義手・義足、装具など、**筋電動義手**も対応）
- ・心大血管疾患（心筋梗塞後、心不全、心大血管手術後、特に術後の**脊髄梗塞**など多数経験）
- ・呼吸器疾患（COPDなど）
- ・がん患者さんのリハビリ（乳癌術後リンパ浮腫や緩和的りハビリも含む）
- ・廃用症候群（救急疾患や外科手術後など急性期病変後）
- ・嚥下障害のリハビリ（嚥下造影）

〈リハビリテーション科にご紹介時のお願い〉

脳卒中の方は、脳卒中地域連携バス、もしくはスマイルネットをご利用ください。

重篤な内科的疾患や心大血管疾患がある場合は、当科ホームページから専用の申し込み用紙をダウンロードいただきご利用ください。臨床経過、リハビリ経過、ADL表、画像データ（CD）など送っていただくと助かります。

当科では標準的な放射線治療をElekta社のリニアック Versa HD を用いて三次元原体照射で行っております。

声門癌、肺癌、食道癌、肝臓癌、膀胱癌、前立腺癌、皮膚癌等の根治的放射線治療を、化学療法併用の場合は各臓器の主治医科のご協力のもと行っております。肺癌や肝臓癌では体幹部定位放射線治療も可能です。（肝臓癌の定位照射はマーカー埋込なしでも透視で位置照合可能な場合に限りです。）外科的治療の補助療法として、直腸癌術前照射、乳癌術後予防照射、食道癌内視鏡治療後の予防照射等も行っております。悪性リンパ腫や骨髄腫に関しては化学療法後の地固め、もしくは残存病変への補助的放射線治療、限局期低悪性度のNHLや孤立性の形質細胞腫等は根治照射を行っています。

症例によっては強度変調放射線治療^(*)が望ましい場合もあり、また当院で困難な定位放射線治療^(**)もあり、その様な症例は東北大学病院などへご紹介しております。

脳転移、骨転移、上大静脈症候群への緩和照射は緊急性の高い症例もございますが、当院では比較的早期に開始できる体制でございます。

良性疾患の放射線療法も、甲状腺眼症やケロイド（術後再発予防もしくは単独放射線治療）などで実施可能です。

X線外照射以外では、ラジウム223内用療法を行っています。去勢抵抗性前立腺癌の骨転移症例に対して全生存期間や骨関連事象発現までの期間を延長させる効果が見込まれる治療です。

上記疾患以外にも、根治的治療、緩和的治療を問わずなるべく対応したいと考えておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

*1 残念ながら当院では未だ導入されていません。 *2 特に転移性脳腫瘍や肝臓癌。

病理診断科

病理診断科部長 いわま 岩間 のりゆき 憲行

医師 中山 文恵

昨年は新型コロナ禍の影響で、生検数が約1割減少いたしました。しかし、先生方のご紹介のお蔭でこの程度の減少で済み、一方、術中迅速診断、細胞診とも検査数を維持できました。心から御礼申し上げます。

近年は、腫瘍の遺伝子解析の進展により新たな腫瘍の提唱、組織学的分類の改変が各臓器で行われています。また、頻回となってきました。それに加えて分子標的薬とともに免疫チェックポイント阻害薬などの新しい機序の薬剤の使用が増えております。そのため、副作用も新しい組織像を呈するものが含まれるようになりました。これらの新たな事象に対応できるような知識が求められており、研鑽に迫られています。

このような進歩に遅れることのないように任務を果たしていきたいと考えております。

今年度もよろしく願いいたします。

歯科

歯科・口腔ケアセンター長 ながい 永井 ひろみ 浩美

歯科・口腔ケア副センター長 塚田 甲

地域診療所の先生におかれましては、日頃のご協力をいただき誠にありがとうございます。当科での診療状況をご案内申し上げます

〈診療体制〉

歯科外来は、月曜日から金曜日まで午前、午後とも診療しています。常勤歯科医2名、歯科衛生士2名の体制で対応しています。

外来新患および再来は完全予約制で、初めて外来を受診される場合はかかりつけ歯科医院からの紹介状が必要となります。詳しくは当院地域医療連携室にお問い合わせ下さい。

〈診療内容〉

週周期口腔機能管理、口腔外科領域の治療および原入院患者様の急を要する歯科治療を行っています。退院後の患者様につきましては原則的にかかりつけ歯科へ診療をお願いしております。週周期口腔機能管理では、全身麻酔下で行う手術の前後や化学療法中における口腔衛生および機能の管理を行っています。また、口腔外科領域で診療している疾患は、主に抜歯（通常の抜歯、全身疾患を持っている患者様の抜歯、埋伏歯の抜歯など）、顎関節症、歯根嚢胞などの手術、口腔粘膜疾患などです。入院での対応も可能です。

当科の診療は、診療前後を通じまして地域診療所の先生方皆様との連携が欠かせないものとなっています。

今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

健康診断部

健康診断部長 ながさわ 長澤 みほ 美穂

医師 今岡 洋一

健康診断部は、2名の医師で担当しています。特定健診、定期・雇い入れなどの一般健診、生活習慣病予防健診、人間ドック、特殊健診など様々な健診を行っています。人間ドックでの上部消化管の検査は透視ではなく、最初から内視鏡で対応しています。また、泊りがけで行う1泊ドックではオプション検査として大腸内視鏡検査が可能であり、治療就労両立支援センターにおいて生活・運動・栄養指導を受けることができる点など総合病院ならではのコースが設定されています。さらに、特殊健診としてじん肺、石綿、電離放射線、高気圧障害、振動障害、有機溶剤、VDTなど職業に関連した健診も行っています。

予防医学の面から皆様のお役に立てるよう診療を行っております。よろしくお願いいたします。

〔在籍医師〕

内科専攻医	医師	高橋 美岐	塩谷梨沙子	河野 雄一	
放射線診断科	部長	濱 光			
	医師	大中 祐太			
麻酔科	部長	岩川 力	小島 晶子	東海林秀幸	
	副部長	山本 庸子	小野ゆき子		
	医師	安齋 寛之	齋藤 可奈		
	非常勤	灰谷あずさ	中村 正帆	佐藤 恵子	山城 晃
研修医師（2年次）	小松 史怜、鳥越 梨奈、松田 美鈴、亀山 悠宇、村上 真之、牧野 裕大、穴戸 明衣、瀬川康二郎、佐藤 佳衣、高濱 純史、進藤 貴郁				
研修医師（1年次）	長田 都、川崎 一旭、木村 瞭、久嶋 郁人、榎間 貴滉、鈴木 康介、鈴木 光太、村上 薫、吉川 佳吾、亀井 利明、佐藤 真司				

東北労災病院 外来診療担当表 (令和3年9月1日)

科/部門	曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	特殊外来・各種教室等			
							名称	曜	時間	
総合診療科		小山 二郎	小山 二郎	小山 二郎	小山 二郎	小山 二郎	完全予約制			
内科	胃腸内科	白木 学	浜田 史朗	小島 康弘	浜田 史朗	小島 康弘	完全予約制			
		齋藤 晃弘	武田 瑤平	近藤 穰	白木 学	近藤 穰				
		齋藤 紘樹		半田 朋子	清水 貴文	今成 賢士郎				
				大原 秀一		大原 秀一				
	内視鏡	上部	大原 秀一	大原 秀一	大原 秀一	大原 秀一	大原 秀一	院外新患は毎週月・木・金曜日の午後(予約制)		
		下部	浜田/近藤	近藤/半田	浜田/齋藤(紘)	近藤/半田/山川/武田	浜田/齋藤(晃)/玉淵/清水			
	肝臓科	小林 智夫	阿部 直司	阿部 直司	阿部 直司	阿部 直司	外来担当医			
		山川 暢		山川 暢	小林 智夫					
	腫瘍内科		森川 直人	丹田 滋	佐藤 悠子	森川 直人	丹田 滋			
	緩和ケア内科		小笠原鉄郎11:00~12:00	小笠原鉄郎9:00~12:00	小笠原鉄郎11:00~12:00	小笠原鉄郎9:00~12:00	小笠原鉄郎11:00~12:00			
糖尿病・代謝内科		今野 陽介(登録医新患)	熊谷 給里(登録医新患)	中村 麻里(登録医新患)	今野 陽介(登録医新患)	鶴田 藍(登録医新患)				
循環器内科	田中 光昭(新患)	高橋 貴久代	宇塚 裕紀(新患)	田中 光昭(新患)	田中 光昭(新患/第1・3・5)	宇塚 裕紀(新患/第2・4)				
	高橋貴久代(再来)		田中 光昭(再来)	宇塚 裕紀(再来)	高橋貴久代(再来)					
高血圧内科		金野 敏	宗像 正徳	宗像(第2・4)、金野(第1・3・5)(院外新患のみ)	宗像 正徳	金野 敏				
腎臓内科			神田 学			神田 学	完全予約制			
呼吸器内科	三浦 元彦	榊原 智博	田代 祐介	三浦 元彦	榊原 智博	榊原 智博	喘息外来(予約制)	月	14:00~15:00	
	田代 祐介	大塚 竜也	中村 優	中村 優	大塚 竜也	大塚 竜也	重症喘息外来(予約制)	木	14:00~15:00	
	竹田 俊一	谷津 年保	阿部 武士	谷津 年保	阿部 武士	阿部 武士	禁煙外来(完全予約制)	火	14:00~16:00	
呼吸器外科		保坂 智子				保坂 智子				
心療内科	町田 貴胤	町田 貴胤	町田 貴胤	町田 貴胤	町田 貴胤	町田 貴胤	新患は火・水曜日のみ 完全予約制			
	町田 知美	町田 知美	町田 知美	町田 知美	町田 知美	町田 知美				
小児科	千葉 靖	千葉 靖	高柳 玲子	高柳 玲子	千葉 靖	千葉 靖	午後診(すべて予約制) 乳児健診(小島):木曜14:00~ 乳児健診(及川):月・金曜14:00~【不定期】 予防接種:火・木曜14:00~ 腎臓外来(千葉靖):木曜14:00~			
	高柳 玲子	沼田 美香	沼田 美香	小島 三千代	沼田 美香	沼田 美香				
	及川 智子(不定期)		—		及川 智子(不定期)	及川 智子(不定期)				
外科	消化器外科	成島 陽一	消化器外科担当医(新患のみ)	松村 直樹	徳村 弘実	野村 良平	ヘルニア外来:月・火・木・金 胆石外来:月・火・木・金 胃外科:金(受付14時まで) 大腸外科:水 ストーマ外来:火曜午後予約制			
	大腸肛門外科		高橋 賢一	佐藤 馨	野村 良平/平嶋 倫亮	本山 一夫				
乳腺外科		本多 博	※本多 博(午後新患のみ)	鶴見菜摘子(午後)	千年 大勝(第1週) 吉田 清香(第2週以降)	(午前)本多 博 (午後)千年 大勝	※午後 新患のみで予約制			
整形外科	関節	井樋 栄二(午前のみ)	小 河 裕 明	①信 田 進 吾	小 河 裕 明	井樋 栄二(10:30まで)	①信田進吾 第3水曜 午後不在 ②小河裕明 第4火曜 午後不在			
		信 田 進 吾	奥 野 洋 史	②小 河 裕 明	國 井 知 典(午前のみ)	信 田 進 吾				
		奥 野 洋 史	國 井 知 典(午前のみ)	國 井 知 典(午前のみ)	奥 野 洋 史(午前のみ)	奥 野 洋 史(午前のみ)				
		佐 藤 諒	松 澤 岳(午前のみ)	佐 藤 諒	松 澤 岳(午前のみ)	松 澤 岳(午前のみ)				
	松 澤 岳(午前のみ)	三浦慎次郎(午後のみ)	—		松 澤 岳(午前のみ)					
脊 椎		日 下 部 隆		※①日下部 隆	日 下 部 隆	日 下 部 隆	※①日下部隆 第2・4水曜 午後不在 ※②松谷重恒 第1・3水曜 午後不在			
		松 谷 重 恒		※②松 谷 重 恒	松 谷 重 恒	松 谷 重 恒				
				原田 健登(午前のみ)	原田 健登(10:30~12:00)	原田 健登(10:30~12:00)				
脳神経外科・脳卒中科		柏原 茂樹(午前)	柏原 茂樹(午前)	柏原 茂樹(午前)	柏原 茂樹(午前)	柏原 茂樹(午前)	※月・木・金曜の午後の受付は14:00まで			
		高橋 智子(午後)		高橋 智子(午後)	高橋 智子(午後)	高橋 智子(午後)				
皮膚科		谷田 宗男	谷田 宗男	谷田 宗男	谷田 佳世	谷田 宗男	※水曜受付10:00まで【手術日】 月・火・木午後検査(予約制)			
		谷田 佳世	秋野 萌子	谷田 佳世	秋野 萌子	秋野 萌子				
泌尿器科		阿部 優子(新患)	浪間 孝重	浪間 孝重	櫻田 祐	新患担当医				
		浪間 孝重	畠谷 蘭子(新患)	畠谷 蘭子(新患)	梅本 秀俊(新患)	阿部 優子				
産婦人科		阿部 祐也	—	東北大学医師	阿部 祐也	—	※月・水・木曜日の午前のみ 完全予約制			
眼科	植松 恵	植松 恵	植松 恵	植松 恵	植松 恵	植松 恵	※月曜日(受付10時まで) ※火・木曜日 手術日(受付10時まで) ※水・金曜日 午後検査(予約制)			
	星 佳佑(午前のみ)	星 佳佑	星 佳佑	星 佳佑	星 佳佑	星 佳佑				
	東北大学医師(午前のみ)		—		—	—				
耳鼻咽喉科	渡邊 健一	渡邊 健一	渡邊 健一	渡邊 健一	渡邊 健一	渡邊 健一	手術日 月・水・金 再来予約制 舌下免疫療法:木曜午後 (完全予約制)			
	織田 潔	織田 潔	織田 潔	織田 潔	織田 潔	織田 潔				
	鶴沼 むつ貴	鶴沼 むつ貴	鶴沼 むつ貴	鶴沼 むつ貴	鶴沼 むつ貴	鶴沼 むつ貴				
	戸塚 大幾	戸塚 大幾	戸塚 大幾	戸塚 大幾	戸塚 大幾	戸塚 大幾				
	白倉 真之	白倉 真之	白倉 真之	白倉 真之	白倉 真之	白倉 真之				
入間田 美保子	—	大山 健二	—	大山 健二	—	—				
リハビリ科		小松 恒弘	心リハ外来	心リハ外来	小松 恒弘	心リハ外来	※外来院内紹介は午前のみ			
			※東北大学医師(第5を除く)							
放射線治療科		田邊 隆哉	田邊 隆哉(新患)	田邊 隆哉	田邊 隆哉	田邊 隆哉(新患)	完全予約制			
		—	畠山 明	畠山 明(新患)	畠山 明	—	完全予約制			
リウマチ科		加藤 一郎	加藤 一郎(新患)	加藤 一郎	—	加藤 一郎	新患は電話で予約			
歯科	永井 浩美	永井 浩美	永井 浩美	永井 浩美	永井 浩美	永井 浩美	完全予約制			
	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲				



独立行政法人 労働者健康安全機構 **東北労災病院**

〒981-8563 宮城県仙台市青葉区台原4-3-21

受付時間 8:15 ~ 11:00

代表電話 022-275-1111(代表) 代表FAX 022-275-4431

地域医療連携センター

直通電話 022-275-1467 直通FAX 0120-772-061